



電子写真方式複合機（複写機、ページ
プリンター）の表示に関するガイドライン
（基準・解説）

静電複写機及び複合機の表示基準
（付表）

第 1 版

JBMIA-TR-40 : 2024

令和 6 年 5 月制定

(May, 2024)

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
Japan Business Machine and Information System Industries Association
標準化センター 標準化分科会, 表示分科会

変更履歴

2024.5	初版制定	

標準化センター 標準化分科会委員構成表

(分科会長)	辻 本 隆 浩	コニカミノルタ株式会社
(副分科会長)	田 尻 文 威	ブラザー工業株式会社
(委 員)	官 林 憲 一	セイコーエプソン株式会社
	佐 伯 和 親	株式会社リコー
	杉 山 勝 美	キヤノン株式会社
	高 橋 聡	京セラドキュメントソリューションズ株式会社
	堤 保 幸	富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
(事務局)	渡 辺 靖 晃	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

標準化センター 表示分科会委員構成表

(分科会長)	阿比留 理 恵	ブラザー販売株式会社
(副分科会長)	竹 村 友 佑	キヤノンマーケティングジャパン株式会社
	宇 都 夏 希	コニカミノルタジャパン株式会社
(委 員)	悴 田 真 也	沖電気工業株式会社
	近 藤 久 和	京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社
	香 月 美智子	シャープ株式会社
	遠 藤 岳 男	セイコーエプソン株式会社
	山 崎 智 久	東芝テック株式会社
	大 西 誠	東芝テック株式会社
	佐 藤 雄 介	リコージャパン株式会社
(事務局)	渡 辺 靖 晃	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

TR 番号：JBMIA-TR-40

制 定：令和6年5月28日

原案作成：標準化センター 標準化分科会，表示分科

1. 制定の目的

表示分科会作成の「静電複写機及び複合機の表示基準」(1985年6月初版制定)は、標準化分科会作成の「ページプリンターの表示に関するガイドライン(基準・解説)」(2002年1月初版制定)と統合し、**TR-38** 「電子写真方式複合機(複合機、ページプリンター)の表示に関するガイドライン(基準・解説)」第5版として新規制定された。

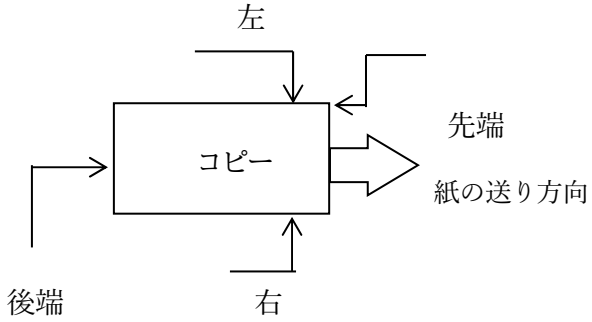
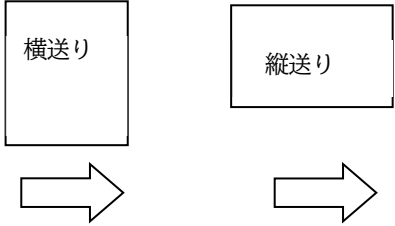
その中の静電複写機及び複合機のユーザーの利便性を考慮し、各機能の仕様及び表示項目をこのTRで定義する。

2. 目次

別表 1	静電複写機・複合機の仕様及びその表示基準	4, 5, 6, 7 ページ
別表 2	自動原稿送り装置の仕様及びその表示基準	8 ページ
別表 3	ソーターの仕様及びその表示基準	9 ページ
別表 4	プリント機能の仕様及びその表示基準	10, 11 ページ
別表 5	スキャン機能の仕様及びその表示基準	12 ページ
別表 6	FAX 機能の仕様及びその表示基準	13 ページ
別表 7	フィニッシャーの仕様及びその表示基準	14, 15 ページ
別表 8	給紙装置の仕様及びその表示基準	16 ページ

別表1 静電複写機・複合機の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略してもよい。	
形式	卓上形、床上形、可搬形の別を記入する。使用する用語は卓上形、デスクトップ、テーブルトップ、床上形、コンソールタイプ、フロアタイプ、可搬形、ポータブルを使用することができる。	<p>卓上形/デスクトップ/テーブルトップ</p> <p>通常のデスク上に設置できるタイプ、または追加トレイやテーブル、キャビネットなどのオプションを追加しないと直に床置きできないタイプ。</p> <p>床上形/コンソールタイプ/フロアタイプ</p> <p>追加トレイやテーブル、キャビネットなどのオプションを追加することなく床上に設置できるタイプ</p> <p>オプション追加で床上に設置できるようになったタイプは卓上/床上形と表記しても可とする。</p> <p>*分かり易くするために図または写真を挿入することが望ましい。</p>
カラー対応	カラー対応の場合は、単色カラー、フルカラー等を記載する。	モノクロの場合、省略して良い。
読み取り解像度	主走査・副走査方向のそれぞれの読み取り解像度を「dpi」または「dpi(ドット数/25.4mm)」で記入する。擬似的に解像度を高める工夫がなされている場合には、相当解像度を記載しても構わないが、その旨を明記する。	アナログ複写機の場合は、記載しなくて良い。
書き込み解像度	主走査・副走査方向のそれぞれの書き込み解像度を「dpi」または「dpi(ドット数/25.4mm)」で記入する。擬似的に解像度を高める工夫がなされている場合には、相当解像度を記載しても構わないが、その旨を明記する。	アナログ複写機の場合は、記載しなくて良い。
階調/表現色	1色あたりの表現できる階調段数を記入する。さらに最大表現色数を記入してもよい。	
原稿サイズ	シート物、ブック物の別及び最大原稿サイズを記入する。 原稿の厚さに制限のあるもの、あるいは補助具を用いる必要のあるものは、その旨を記入する。また、シート物とブック物で最大原稿サイズが異なるものは、その旨を記入する。	

<p>用紙サイズ</p>	<p>最大及び最小の複写用紙サイズを記入する。ただし、自動給紙を主体とする機械において、手差しでしか使用できないサイズについては、その旨を記入する。</p> <p>なお、あるサイズ用紙に目一杯書き込まれた原稿を複写した場合に、出力された用紙上の記録できない範囲を「画像欠け幅」とし、その先端、後端及び左右端の記録不可能な幅寸法をミリメートル(mm)で記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 画像欠け幅は、1 mm以上であれば記載する。 2. 画像欠け幅の表示は、ミリメートル(mm)単位とし、小数点以下は四捨五入する。 	<p>画像欠け幅の場所の表現は通紙方向に対し下記の通りとする。</p>  <p>用紙サイズにより搬送できる用紙坪量に制限がある場合はその旨を記載することが望ましい。</p>
<p>用紙種類</p>	<p>収容できる用紙の種類(上質紙、コート紙、封筒など)及び坪量(g/m2)などを記入する。</p>	<p>(用紙種類を表す文言は各社判断とする)</p> <p>用紙種類により搬送できる用紙坪量に制限がある場合はその旨を記載することが望ましい。</p>
<p>ウォームアップ タイム</p>	<p>電源スイッチ投入後、複写可能になるまでの時間(分または秒)を記入する。</p>	
<p>ファーストコピー タイム</p>	<p>通常の使用状態(A4 等倍、標準とする送り方向)で、スタートボタンを押してから1枚目のコピー用紙が排出し終わるまでの最も早い条件での時間(秒)を記入する。</p>	
<p>リカバリータイム (スリープ復帰時間)</p>	<p>機械がスリープ状態からレディー状態に移行するまでに要する時間(秒)を記入する。</p>	<p>(但し、運用はリードタイムを置く)</p>
<p>連続複写速度</p>	<p>通常の使用状態(A4 等倍、標準とする送り方向)で複写を連続して行い、1分間に複写できる枚数を枚/分で記入する。</p> <p>複写サイズによって複写速度の異なる場合は、A3、B4、A4、B5のサイズについて、その枚数を記入する、もしくは用紙サイズ・種類によって複写速度が異なる旨の注釈を入れる。</p> <p>複写枚数は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10cpm 未満は小数点第2位を四捨五入し、有効数字2桁で表示○.○ 2. 10cpm 以上 100cpm 未満は以下のいずれかの表示を各社判断で表示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数点第1位を四捨五入し有効数字2桁で表示○ ○ ・ 小数点第2位を四捨五入し有効数字3桁で表示○ 	<p>・ 測定に当たっては連続11枚をコピーし、1枚目の排紙完了時から11枚目が排紙完了する迄の時間を測定し(A秒を得る)、下記により1分間の複写枚数に換算する。</p> $60 \div (A/10) = 1 \text{ 分間の複写枚数}$ <p>・ 両面複写速度記載の場合は“ページ/分”で記載する。</p> <p>・ 紙の送り方向</p> <p>紙の長辺を先端として紙を送るのを横送り、短辺を先端として送るのを縦送りという。</p> 

	<p>○.○</p> <p>3. 100cpm 以上は小数点第 1 位を四捨五入し、有効数字 3 桁で表示</p>	
複写倍率	<p>拡大、縮小については、複写倍率をパーセント(%), または小数点以下 2 桁で表示する。等倍については、複写倍率を 1 として誤差の範囲をパーセント(%)で表示する。</p>	<p>任意倍率選択時、例えば 1%(またはそれ以上)間隔の設定機能である場合、その設定間隔を表示すること。 [記入例] 50~150%(1%刻み)、等倍時誤差 ±0.7%</p>
給紙方式/給紙容量	<p>カセット、トレイ、大容量給紙装置の別とその段数及び給紙容量を記入する。手差し機構のある場合はその旨を、また、ロール紙の場合はその旨をそれぞれ記入する。</p>	<p>* 給紙容量は、自社の基準となる推奨紙(商品名)または坪量(g/m²)を注記する。</p> <p>* 手差し機構で連続給紙が可能なものはその給紙容量も付記する。 (例)手差し: 50 枚(64g/m²)紙</p>
連続複写枚数	<p>最大連続複写可能枚数を記入する。</p>	
電源	<p>AC はボルト(V)、アンペア(A)、ヘルツ(Hz)を、DC はボルト(V)、アンペア(A)を記入する。</p>	
最大消費電力	<p>最大消費電力をキロワット(kW)またはワット(W)の単位で記入する。</p> <p>測定は、本体から電源を供給されるオプションを全て含んだ状態(オプションが複数ある場合は、消費電力が最大となる組み合わせ)で行う。</p>	<p>尚、低電力モード時やオートオフ/スリープモード時の消費電力を併記しても良い。</p>
エネルギー消費効率	<p>エネルギー消費効率(複写機): Wh/h 区分: XX</p> <p>エネルギー消費効率(複合機): kWh/年 区分: YY</p> <p>(いずれも整数表示)</p>	<p>別途定められた(エネルギー使用の合理化に関する法律-平成 25 年 3 月 1 日付)内容に基づいて得られた、測定数値及びその区分を表示する。</p> <p>区分は、複写機 1~32、複合機 a~d</p>

		<p>エネルギー消費効率を記載する場合は注釈を付記すること。</p> <p>[記入例] 80kWh/年 区分：複合機 c</p> <p>*省エネ法(平成 25 年 3 月 1 日付)で定められた複写機・複合機別の測定方法による数値</p> <p>* 以下(静電複写機・複合機)は、この基準の対象外となる。</p> <p>① 複写速度又は印刷速度が 86 枚/分以上のモノクロ複写機 ② モノクロ複写速度又は印刷速度が 61 枚/分以上のカラー複写機又は複合機 ③ モノクロ複写速度又は印刷速度が 12 枚/分以下の複写機又は複合機 ④ A2 以上の大判複写機又は複合機 ⑤ カラー複写単能機 ⑥ 原稿台を有しないファクシミリ複合機 ⑦ スキャナ機能及びファクシミリ機能のみを有するもの ⑧ デジタルフロントエンド(DFE)機能を有するもの</p> <p>対象外品目の場合、当項目の記載は不要。メーカー判断で当項目を記載する場合や総合カタログで列記する場合には「省エネ法の対象外」と表示する。</p>
大きさ	<p>本体のみの寸法について、幅、奥行、高さの順でセンチメートル(cm)またはミリメートル(mm)の単位で記入する。センチメートル(cm)の場合は、小数点以下第 1 位まで記入する。</p>	<p>* 本体のみとは、排紙トレイ、原稿置台、キーカウンターを取り外した状態をいい、本体に固定している突起部分は含むものとする。</p> <p>* 設置時に壁等の隙間確保のために付ける突起部分は含まない。</p> <p>* 高さについては、平らな床の上に置き、床から最も高い部分まで測定する。</p>
質量	<p>本体の質量を kg 単位で記載する。</p>	<p>消耗品を含んだ又は除いた質量かを明記する。</p>
機械占有寸法	<p>給紙トレイ及び排紙トレイを取り付けた状態の寸法について、幅、奥行をセンチメートル(cm)またはミリメートル(mm)の単位で記入する。センチメートル(cm)の場合は、小数点以下第 1 位迄記入する。なお、使用可能な状態で、最大値を記載する。図で表記しても可とする。</p> <p>オプションを取り付けた場合の機械占有寸法を併せて記入することが望ましい。</p>	<p>メンテナンススペースを含んだサイズについては、各社の判断に委ねる。ただし、記載する場合には、別項目(別名称)で入れる。</p>

注記 1) 項目名等の送り仮名、音引き(長音)の表記方法については各社判断とする。

注記 2) 性能試験における環境は JBMS-19 に準拠すること。

注記 3) TEC 値の記載は各社判断で可とする。但し、TEC 値を記入する場合は、エネルギー消費効率とは別項目とし、以下の注釈を付記すること。

「*国際エネルギースタープログラムで定められた測定法による数値」

別表2 自動原稿送り装置の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略してもよい。	本体標準装備の場合には省略しても良い。
原稿送り装置の種類	原稿送り装置、自動原稿送り装置、自動両面原稿送り装置、1パス両面原稿送り装置の別を記入する。	
原稿サイズ/原稿種類	使用可能な原稿の最大及び最小の寸法をミリメートル(mm)、またはJIS P0138(紙加工仕上げ寸法)による寸法呼び(例、A3、B4)で記入する。また特殊な原稿が使用可能な場合はその大きさを示す寸法を記入してもよい。 使用可能な原稿の紙厚の範囲を坪量(g/m ²)で記入する。また、特殊な原稿や紙種類が使用可能な場合にはその旨を記入してもよい。	原稿種類を表す文言は各社判断とする。
原稿積載枚数	一度にセットできる原稿の最大枚数を記入する。原稿のサイズ及び坪量によって異なる場合はその旨を記載する。	
原稿読み取り速度	コピー時とスキャン時の原稿読み取り速度をそれぞれ記載する。 コピー時は本装置と本体の組み合わせにおいて、複数枚のA4サイズ原稿から原稿1枚毎に、複写倍率1:1のコピーを1枚ずつ連続してとる場合の、組み合わせ複写速度(枚/分)を記入する。 スキャン時は通常の使用状態(A4等倍、標準とする送り方向)で、自動原稿送り装置を使った原稿読み取り速度を「ページ/分」、または「ipm」で記入する。 解像度、カラー/モノクロ、片面読み取り/両面反転読み取り/両面同時読み取り(1パス両面読み取り)等の条件を記述する。	
電源/最大消費電力	本体と別電源の場合には、その旨を明記し、電圧(V)、電流(A)および最大消費電力(WまたはkW)を記入する。	別表01の電源、最大消費電力で含まれている場合は、この項目を省略しても良い。
大きさ/質量	幅、奥行、高さの順序で寸法を、センチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。 質量(kg)を記入する。	大きさは、センチメートル(cm)を単位で使用する場合には、小数点第1位まで記載すること。 本装置が複写機本体に標準装備されている場合、本体仕様に記載し、この項目を削除してもよい。

別表3 ソーターの仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略しても良い。	本体標準装備の場合には省略しても良い。
用紙サイズ/用紙種類	ソートビンに収容できる用紙の最大および最小の寸法をミリメートル(mm)、または JIS P 0138(紙加工仕上げ寸法)による寸法呼び(例、A3、B4)で記入する。なお、ノンソートビンに収容できる用紙サイズが異なる場合はその旨を記入する。 使用できる用紙の厚さの範囲を坪量(g/m ²)の単位で記入する。また、OHP 用紙等特殊用紙が使用できる場合はその旨を記入する。	用紙種類を表す文言は各社判断とする。
ビン数	用紙を区分するビン数を記入する。ノンソートビン(専用)を有する場合、その旨を記入する。	
ビン容量	1ビンに収容できる用紙枚数を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。また、ソートビンとノンソートビンの収容枚数が異なる場合は、それぞれについて記入する。必要に応じて用紙の坪量(g/m ²)の記入をする。	
ステープル	最大とじ枚数、とじ用紙最大・最小サイズ、とじ方(個所)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	各社の呼称を使用しても良い。 用紙の坪量(g/m ²)を併記してもよい。
パンチ	穴あけ用紙最大・最小サイズ、穴の数、パンチ可能な用紙坪量(g/m ²)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	別オプションの場合、別表にしても良い。各社の呼称を使用しても良い。
電源/最大消費電力	本体と別電源の場合には、その旨を明記し、電圧(V)、電流(A)および最大消費電力(WまたはkW)を記入する。	別表01の電源、最大消費電力に含まれている場合は、この項目を省略しても良い。
大きさ/質量	幅、奥行、高さの順序で寸法を、センチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。 トレイが伸縮可能な場合、最大値を併せて記入するのが望ましい。 質量(kg)を記入する。	大きさは、センチメートル(cm)を単位で使用する場合には、小数点第1位まで記載すること。 本装置が複写機本体に標準装備されている場合、本体仕様に記載し、この項目を省略してもよい。
本体接続時の占有寸法	本体とソーターを接続した寸法を、幅、奥行の順序でセンチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。図で表記しても可とする。 本体に手差しなどの補助装置がある場合には、使用可能な状態とし最大値を記入する。	

別表4 プリント機能の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略しても良い。	
プリントサイズ	別表01の複写サイズと異なる場合は、記載する。	
連続プリント速度	通常の使用状態(A4等倍、標準とする送り方向)でプリントを連続して行い、1分間にプリントできる枚数を枚/分で記入する。 プリントサイズによって速度の異なる場合は、A3、B4、A4、B5のサイズについて、その枚数を記入する、もしくは用紙サイズ・種類によってプリント速度が異なる旨の注釈を入れる。	速度については、複写速度と同一の基準で表示する。 複写速度と同じ場合、その旨を記入しても良い。両面プリント速度記載の場合は“ページ/分”で記載する。
書き込み解像度	プリントエンジンの書き込み解像度を主走査方向、副走査方向それぞれ、「dpi」または「dpi(ドット数/25.4mm)」で記入する。 擬似的に解像度を高めるような工夫がなされている場合には、相当解像度を記載してもかまわない。 [例] 600dpi×600dpi 2400dpi相当×600dpi	複写時の書き込み解像度と同じ場合、その旨を記入しても良い。
ページ記述言語	印刷内容を記述したり、プリントの機械的動作を制御するもので、その言語の名称を記入する。	
対応プロトコル	ネットワーク上のパソコンと周辺機器とのデータ送受信を行うために必要な通信規約のことで、その名称を記入する。 [例] TCP/IP、IPX/SPX、EtherTalk、NetBEUI、IPP	
対応OS	対応しているパソコンのOSを記入する。 [例] Windows2000/XP/Vista/7	
内蔵フォント	プリンターコントローラーに搭載されているフォントの名称や書体数を記載する。オプションの場合はその旨を記載する。 [例] 日本語：平成明朝体 W3、平成ゴシック体 W5 欧文 : 130 書体	
エミュレーション	他のプリンターとソフトインターフェースの互換性を持たせることをエミュレーションと呼び、適用となるプリンターの名称、あるいはプリンター制御コマンド体系の名称を記載する。 オプションの場合はその旨を記載する。 [例] PC-PR201H、ESC/P、HP-GL2	

インターフェース	<p>インターフェースの規格名称を記載する。 オプションの場合はその旨記載する。</p> <p>[例] 標準：双方向パラレル(IEEE1284 準拠)、 Ethernet 1000Base-T、100Base-TX、10Base-T オプション：Bluetooth</p>	
電源/最大消費電力	プリンターコントローラーが外付けの場合にのみ記載する。	
大きさ/質量	プリンターコントローラーが外付けの場合にのみ記載する。	

別表5 スキャン機能の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略しても良い。	
形式	カラー Scanner、白黒 Scanner の別を記入する。	
原稿サイズ	読み取り可能な最大原稿サイズを記載する。	複写原稿と同じ場合は省略できる。
読み取り解像度	主走査方向と副走査方向の解像度を記入する。 解像度は「dpi」又は「dpi (ドット数/25.4mm)」で記入する。	複写時の読み取り解像度と同じ場合省略しても良い。 複写時の読み取り解像度と違い低解像度を選択できるので誤解のないように注意する。
原稿読み取り速度	自動原稿送り装置の仕様「原稿読み取り速度」を参照と記載する。	自動原稿送り装置の無いモデルの場合は当該項目の記載は不要。 本項目の記載は省略しても可。
インターフェース	インターフェースの規格名称を記載する。 オプションの場合はその旨記載する。 [例] SCSI、RS232C、Ethernet 10Base-T、100Base-Tx、1000Base-T、USB、IEEE1394 等	
対応プロトコル	外部画像出力機能のあるものは、伝送プロトコルを記す。 [例] TCP/IP、SMTP、POP3、HTTP その他	
対応 OS	対応しているパソコンの OS を記入する。 [例] Windows2000、XP、Vista、Windows7	
出力フォーマット	画像の出力フォーマットを記す。また、圧縮ありの場合は、圧縮方式を記載しても良い。 [例] 出力フォーマット TIFF、PDF、EPS、PICT、DCS 等 圧縮方式 MH、MR、MMR、JBIG、JPEG その他	
ドライバー	TWAIN 対応等、デバイスドライバー規格を記す。 プル型(TWAIN)／プッシュ型等を各社判断で追記してもよい。	ドライバーを使用していない場合、省略してよい。

別表6 FAX機能の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略しても良い。	
適用回線	適用回線 接続可能回線種類と収容可能回線数を記入する。 [例] 一般加入電話回線、PSTN(2回線)、ISDN、ファクシミリ通信網	
走査線密度	通信において提供する主走査、副走査の解像度をモードごとに記入する。 [例] 標準モード：8dot/mm×3.85本/mm、 ファインモード：8dot/mm×7.7本/mm	
通信速度	伝送規格ごとに通信速度を記入する。 [例] G3:14.4kbps、G4:64kbps	
符号化方式	具備しているデータ圧縮の方式をすべて記入する。 [例] MH, MR, MMR, JBIG, JPEG	
通信モード	交信可能なプロトコルを全て記入する。 [例] G3, G4, 独自モード	
送信原稿サイズ	定型の最大サイズを記入する。 但し、長尺原稿が送信可能な場合は、最大長を記入する。 [例] A3(297×420mm)、長さ500mm	
記録紙サイズ	定型の最大サイズ及び最小サイズを記入する。 [例] 最大:A3 最小:A4	
電送時間	使用する原稿の種類と通信モードを明らかにし、最高速での画像送信部分の時間を記載する。 [例] 約3秒(A4 自社原稿、標準読取、自社独自手順時)	

別表7 フィニッシャーの仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略してもよい。	本体標準装備の場合には省略しても良い。
用紙サイズ/用紙種類	トレイに収容できる用紙の最大および最小の寸法をミリメートル(mm)、または JIS P 0138(紙加工仕上げ寸法)による寸法呼び(例、A3、B4)で記入する。なお、各トレイに収容できる用紙サイズが異なる場合はその旨を記入する。 トレイに使用できる用紙の厚さの範囲を坪量(g/m ²)の単位で記入する。また、OHP 用紙等特殊用紙が使用できる場合はその旨を記入する。	用紙種類を表す文言は各社判断とする。
トレイ容量	各トレイに収容できる用紙枚数を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。必要に応じて用紙の坪量(g/m ²)の記入をする。	
ステープル	最大とじ枚数、とじ用紙最大・最小サイズ、とじ方(箇所)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	各社の呼称を使用しても良い。
パンチ	穴あけ用紙最大・最小サイズ、穴の数、パンチ可能な用紙坪量(g/m ²)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	別オプションの場合、別表にしても良い。 各社の呼称を使用しても良い。
中とじ	最大とじ枚数、とじ用紙最大・最小サイズ、中とじ可能な用紙坪量(g/m ²)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	別オプションの場合、別表にしても良い。 各社の呼称を使用しても良い。
折り	折り可能な最大・最小サイズ、折り可能な用紙坪量(g/m ²)を記入する。用紙サイズ、その他の条件によって異なる場合はその旨を記入する。	別オプションの場合、別表にしても良い。 各社の呼称を使用しても良い。 その他の折り様式がある場合は個別に記載する。
電源/最大消費電力	本体と別電源の場合には、その旨を明記し、電圧(V)、電流(A)および最大消費電力(W または kW)を記入する。	別表 01 の電源、最大消費電力に含まれている場合は、この項目を省略しても良い。
大きさ/質量	幅、奥行、高さの順序で寸法を、センチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。 トレイが伸縮可能な場合、最大値を併せて記入するのが望ましい。 質量(kg)を記入する。	大きさは、センチメートル(cm)を単位で使用する場合には、小数点第1位まで記載すること。 本装置が複写機本体に標準装備されている場合、本体仕様に記載し、この項目を省略してもよい。

本体接続時の占有寸法	本体とフィニッシャーを接続した寸法を、幅、奥行の順序でセンチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。図で表記しても可とする。 本体に手差しなどの補助装置がある場合には、使用可能な状態とし最大値を記入する。	
------------	--	--

別表 8 給紙装置の仕様及びその表示基準

項目	記入要領	備考
名称	商品名または形名(型名)を記入する。ただし、仕様書の見出しに商品名または形名(型名)を表示してあるものはこの項目を省略してもよい。	
用紙サイズ/用紙種類	収容できる用紙の最大および最小の寸法をミリメートル(mm)、または JIS P 0138(紙加工仕上げ寸法)による寸法呼び(例、A3、B4)で記入する。各段毎に収容可能サイズが異なる場合、サイズが明確になるように記入することが望ましい。使用できる用紙の厚さの範囲を坪量(g/m ²)の単位で記入する。	用紙種類を表す文言は各社判断とする。
給紙段数/給紙容量	カセット、トレイ等の段数および給紙容量を記入する。給紙段数が複数ある場合には、給紙段数と給紙容量を併記して各段数の容量が明確になるように記入することが望ましい。	給紙容量は、自社の基準となる推奨紙(商品名)または坪量(g/m ²)を注記する。
電源/最大消費電力	本体と別電源の場合には、その旨を明記し、電圧(V)、電流(A)および最大消費電力(W または kW)を記入する。	別表 01 の電源、最大消費電力で含まれている場合は、この項目を省略しても良い。
大きさ/質量	幅、奥行、高さの順序で寸法を、センチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。 質量(kg)を記入する。	大きさは、センチメートル(cm)を単位で使用する場合には、小数点第1位まで記載すること。
本体接続時の占有寸法	本体横に置くタイプの装置の場合には、本体と給紙装置を接続した寸法を、幅、奥行の順序でセンチメートル(cm)またはミリメートル(mm)で記入する。図で表記しても可とする。	置き台(ペディスタル)兼用タイプの場合には、省略してよい。